

おとし台 剣友会だより

第三十七回 武陽旗 関東少年剣道大会

レポート 梅澤

平成二八年二月二七日（土） 駿河台大学体育館にて第三十七回武陽旗関東少年剣道大会が行われました。

この大会は全国道場少年剣道大会優勝の昭島中央剣友会主催で、関東をはじめとして福島、長野、静岡から強豪が集まる大きな大会です。参加団体は二五二チームでした。

前哨戦（？）とも言える席取りは、東松館に次ぐ好位置を確保、応援に由木先生、桑原先輩、島さんも駆けつけて下さり万全の態勢で試合に臨みました。

今回の小中混成メンバーは何故か強豪との対戦を呼び込む不思議なメンバーだけに組み合わせが注目されましたが、今回も期待を裏切る事なく二回戦で昨年度準優勝チームの山梨健心館との対戦を引き当てました。

オーダーは次の通りです

先鋒 青柳 伸治（小六）
次鋒 黒澤 栞太（小六）
中堅 梅澤 萌里（小六）
副将 青柳 幸作（中二）
大将 梅澤 悠吾（中三）



副将の幸作は自分の役割を理解出来る頭のいい選手。冷静な試合運びでした。体格差のある相手に自分から攻めることが出来ました。

大将の悠吾は結果としては二本負けと振るいませんでしたが、強豪相手に果敢に攻め最後まで諦めず勝利を呼び込もうとする姿勢が印象的でした。結果は一勝三敗一分けでした。



一回戦・福生警察署Bチームとの対戦。

第一試合でしたので「正面に礼！」の合図ののちに厳かな雰囲気の中で試合が始まりました。小学生は先鋒、中堅まで二本勝ち、中学生は引き分け、一本負けとなりましたが皆それぞれ緊張は見られず動きは良かったです。

先に勝負が決まっていたので中学生は思いきって試合が出来ました。結果は三勝一敗一分けでした。

二回戦・山梨健心館との対戦。

先鋒の伸治は珍しく自分よりも小柄な選手との対戦に戸惑いながらも自分の勝利から流れを作ろうと言う気持ちで伝わり、気迫十分の試合運びでした。惜しい打突もありましたが引き分けでした。

次鋒の栞ちゃんは今回のメンバーの中では一番経験が浅い中、試合をつなぐ意識を持って自分の持ち味を十分に発揮していました。

中堅の萌里はポイントゲッターとしての役割を果たすことが出来ました。

試合が終わって戻って来た選手の様子は悔しそうではありましたが、次に繋がる何かを見つけた様子にも見えしました。強豪チーム相手に堂々とした試合運びで、戦い方によっては勝てたのかも（?!）と思わせてくれた皆本当に格好良かったです。（親ばかりですみません）

今回のメンバーに共通して言えることは、各々が試合に向けて努力し、どんな相手が来ても全力でぶつかる気持ちを持っていたことだと思います。試合が始まる前から戦いが始まっているのですね。



ドキドキしましたが、楽しんで応援することができ思い出に残る一日となりました。出場させて頂き有難うございました。



三月号

★誰よりも多く素振りをする
それが必ず自信となる